

今回は、QCUについて、その測定項目や測定の際の留意すべき点などを学んだ。

私たちは日常 PCI において IVUS を使用する際、CSA や病変長など測定し、ステントの径や長さを決定している。

薬剤溶出ステントが使用可能となった現在、その有用性は増しているものと思われる。それとともに、IVUS 像の正確な理解と、QCU の正確さも重要となるであろう。

自分自身は IVUS を使用して PCI を行ってはいるが、QCU を行いその客観的な数値を十分に活用しているとは言い難い。また、データを蓄積して study を行う作業をしないと、それを十分に活かすきれないのではないだろうか。

今後 IVUS 読影の技術を磨くとともに、QCU を積極的に行い PCI の質を高めたい。